た、それが社會の中で客觀的にどのように位置づけられるかなどについて分析してみたい。

蔣介石と南京國民政府
——中國國民黨の權力浸透に關する分析——

家近亮子

私は、中國國民黨が中華民國を代表する正統政府である南京國民政府を成立させ、日中戰爭を勝利に導きながら、續く中國共產黨との內戰において敗北した最大の原因を、中國國民黨の權力の不浸透に求める。

その不浸透の要因は以下のことに求められる。

①孫文理論に基づいた國家建設プログラム實現という政策課題の達成義務と內外の政治狀況との矛盾。

②孫文後繼をめぐる黨內における矛盾。

・孫文理論の「不精緻」性と解釋權の不確立。

・蔣介石の權力への挑戰とそれを阻止しようとする黨內對抗勢力との對立。

③②を背景とする制度化及び政策の轉變。

④③を背景とする、黨組織形成の全國的展開、及び黨員の全國的擴大の不足。

以上の要因によって、中國國民黨はその支配の基本ともなるべき「以黨治國」を實現することができなかった。そのことは、かえって日中戰爭勃發後、黨內における蔣介石の個人獨裁を容認することとなる。その結果、多くの知識人及び中間勢力を國民黨から離反させ、共產黨の下に糾合させることとなったのである。

高昌國の成立をめぐって

關尾史郎

『吐魯番出土文書』を開いてみればわかるように、ちょうど一五〇〇年前に成立した麴氏高昌國（五〇一～六四〇年、表題も含め、以下、「高昌國」）時代のトゥルファン文書は、大多數が官府・官員によって作成されたとおぼしき帳簿類である。一方、同じく官府・官員によって作成された狹義の官文書は數が少ないばかりか、奏・符・辭・班示など種類もまことに貧弱なのである。そしてかかる傾向は、五胡時代の文書と比較しても顯著と言えるのであって、偶然として處理することはできない。發表者は、このような文書の殘存狀況と「正史」高昌傳の記述とを合わせ檢討することによって、高昌國の國制の、同時代の中國王朝とは大きく異なった特質を明らかにすることができると考えるものである。

高昌國の國制については、狹義の官文書の體系や郡縣制の運營などを中心に檢討が進められてきており、郡と縣には統屬關係がなかったこと、太守や縣令は遙任化していたことなどが既に明らかになっている。發表者は、右のような方法をとりながら、これまでの成果の上に新たな知見を加えたい。これが第一點である。また特異な

國制が、いつ・どのようにして成立したのか、という問題に對しても、一定の見通しを立てておきたい。これが第二點である。その際、同時代の中國王朝からの影響もさることながら、五胡―高昌郡時代や、先行する諸氏高昌國時代からの繼續性にも注意を拂いたいと思う。

アクバル時代末期の史料について
――いわゆる『アフワーリ・アサド・ベグ』を中心に――

眞下裕之

アクバル時代の公式の王朝史『アクバル・ナーマ』は著者の暗殺により治世第四七年初（一六〇二年）までの記事をもって中絶している。このため、以降アクバルの死去（一六〇五年）までの時期については、同時代史料がきわめて乏しく、詳細な情報は後代に編纂された年代記に據るほかない。

このような史料狀況において、その時期にアクバルに仕えた人物によって書かれた記錄である、いわゆる『アフワーリ・アサド・ベグ』は貴重な同時代史料として利用されてきた。

にもかかわらず、本書の校訂本はいまだ存在せず、ごく部分的な翻譯が公刊されているに過ぎない。また本書の史料論を試みた研究も皆無である。

そこで、本研究は、今日知られる本書の寫本六點を檢討した上で、

一．寫本系統の考察をふまえて校訂本作成への指針を示し、
二．著者の履歷、著作時期などの檢討から、基礎的な史料論を示す。その上で、
三．他の史料との對照において史料的價値を檢討し、
四．この時期に關する史料全般の諸問題にも論及する。

「近代」に直面する遊牧民
――ヤージュ・ベディルの事例から――

江川ひかり

ヤージュ・ベディルは、西アナトリアにおいてオスマン朝の行財政機構に組み込まれることとなった遊牧民グループのひとつである。一五三〇年、ヤージュ・ベディルは、「ヤイジュラル・ユリュクレリ・ジェマアティ」として知られ、行政的にはマニサ縣ギョルデキ郡に歸屬していた。當時納稅對象戶として一一戶が、一八世紀初頭には約八〇戶が、さらに一九世紀中葉にはバルケスィル地域にあわせて二四七戶が存在した。このことからヤージュ・ベディルは、人口增加と新たな經濟力の獲得とにともなって、ギョルデキ周邊から生活の場を擴大していったと考えられる。ヤージュ・ベディルは、もともと弓（ヤイ）を製造してきたことによって古くから「ヤイジュラル（弓職人）」という名で知られてきた。例えば一六世紀前半には一一～一二の弓を、一八世紀初頭には八〇～八一の弓